

## 北野文書 ⑤ 「おさしづ」の写し翻刻

おやさと研究所員  
安井 幹夫 Mikio Yasui

(13) 明治廿四年五月十八日 夜十一時刻限御咄し  
さあへへとふいでへ 咄しハとふいでへ とふい  
處のはなしやへ どんなとふい処から はるへの道 はる  
へのさと よふへ」(28オ)

の日はちかづく できた ひろいへ道といふて出てきた  
国といふ処だんへわたり 日本国といふたら たいへんなち  
いさい國といへと土地里よくへの事情かゝるやいなやの道が  
あつて とふい事情より はるへの道 是迄かたきへの  
そのかたき なんでもをもいへの道があれど われかをわか  
の中」(28ウ)

に一ツいろへの道 いろへのりから一寸事情 一時ならん  
どふてもこふでもならん むらくものの中に どんならんもの  
がある よるへとゆふ なにほどとふくといへど 心とゆふ  
りハおなじり そのばふかきはなし 是迄だんへといたはなし  
ハ 長いはなし くだいはなし 今といふて今にハでよふ」  
(29オ)

まひ なれとじせつ一日の日を よふきゝわけ 年限の道とゆ  
ふハ一日の日にはじまる 一時しばらくといふ まあかすかの  
事なら やれへ事情おさまれど じせつとはなしたりハでに  
やならん ふるい咄し年限ハわかるまい 世界中どんな道もあ  
る わからんへの中に心のりがある 心のりによりてよせる  
心のり」(29ウ)

ハ一般一ツといへど いくゑのりもある 一寸のはなしかけた  
る一日の日とゆふハ をきいはなし ぜんへよりさとした  
る どんな道があつても をめをそれるやなひ 是迄にもさと  
してある 内々むねのしやん第一 どふでもこふでもつれてと  
ふらにやならん ふんばらにやならんといふりで 刻限今一時  
の処」(30オ)

もふへ身がせまる 身がせまるやなひ 世界がせまるからミ  
なよせる 天のりがせまる いかなる道もみへてくる うつかり  
ハしていられん そこで身にさわり あちらの事情がはしり  
身上がせまる 身がせまるやなひ 世界の道がせまる どん  
な道がミへてもあんじる事ハなひ をそれるも心あんじるも心  
い」(30ウ)

さむも心 みなへの心をよせて よくきいてをかねバならん  
つみへでむねのうち とふくいかなるも心一ツの道 心  
一ツのりをめんへ一時といふ どんな事があつてもへんじよ  
でハ どんななんきがをこるやらしれん ミなしよちをしてい  
れば その日がきても ほんにあの事情かと心に」(31オ)

たのしむ 一ぱしどふゆふ事情になるとも 日本一ツの道があ  
る こふがある 神一条とゆふてある わからんやあろまひ  
あんじる事ハいらんで 天よりはじめて一ツの道をおさめると  
ゆふ

(14) 明治廿四年五月十日 先の御差図二付心得の處御願

欄外に「此御指図ハ五月九日の続キ□□□□ミナ記載ヲ欠キ  
タルヲ以テ今此講記ス」の注記あり。

さあへもふどふも事情へ」(31ウ)  
刻限事情とゆふハおくりへの刻限事情 どんな事でもそれ

へだんじふしよふに たらんあいだによつて どんな事もと  
ふよへゆるしてある 事情きゝわけてをかねバならん どん  
な事もさきへに尋ねでねバならん どんな事であつたなあと  
ゆふよふでハどふもし」(32オ)

よふない 人間心でハとふれやせん 是からかつての事情でを  
くれん はじめて一ツの事情 是迄なき道をひろく これまで  
さとしてある これからきゝわけ 一寸したこんな事 このく  
らいの事 心それへわからんへの間やから そのまゝゆる  
してある これからだんじじじよをもつてなんども」(32ウ)

かたく世界一ツゆるし 一ツりをもつてなんでもかたく 世界  
一ツゆるし 一ツりをもつてとふれバちかう事ハない 道かひ  
ろくなる 地場ひろくなる 神の道ハ一ツの道からみなきゝと  
つてじゆよふとゆふ 人間のりでハさへあろまひ これか  
らなんでもかでも尋る事情をとふるなら 一寸もちがう事ハさ  
らへなひ」(33オ)

なんたる事情をとふりたてある せんへさとしたる道ハとふ  
さにやならん ことばのりハとふさにやならん かつての道と  
ふりていんねんとゆふ これからをさめさす むつかし事であ  
る ミな心のりをよせるなら ながくとハゆわん はやくみせ  
たい 又世界の道 内々地場一ツのりハなんでもとふさにやま  
ろまひ さきへの事情たのしみ 事情これ一ツよふきゝわけ  
てくれねバ かわりかたなひ

押て御願

さあへどふもしやまになつてならんといふ事情きゝわけ  
どんな事もいまでハ ミなみゆるしてある事ゆふハさきにさ  
としたる これからハだんじ一ツさし」(34オ)

づ道よりたゝせんで かやしてへゆふてをこふ さしづの道  
よりたゝせん をれがへといふハ うすがミはつてあるよふ  
なもの さきハミへてミへん なにほどの事情 一日の日の事  
情ともゆふてある ミてハつよく かたいよふにみへる なれ  
どあちらかすへ こちらかすへ 元々よりかたい事ハ」(34  
ウ)

なひ これ一ツのりも心にをさめにやなるふまひ さしづのり  
ハはづれるかはづれんか どふゆう事しらずへ尋ねかけて  
一ツのりハじやまになる 事情きゝわけ 神がじつとしていた  
なら 世界からよりきても どふもなるふまひ どふゆふもの  
であるふと ゆふだけの事やで」(35オ)

(15) 明治廿四年五月廿一日 梅谷分教会設置二付上願の事情  
御願

さあへ事情へ さあへはこべへ さあへ

(16) 同日 西陣支教会設置二付府庁へ出願の事情願

さあへ 事情はこぶ さあ」(35ウ)

へはこぶかよいへ

(17) 同日 愛知支教会設置二付上願事情願

さあへ はこべ はこんでみよ そふはこぶがよい